

令和4年度第5回サイエンスゼミ(解剖)

今回は第5回「医学分野」です。ラットを用いて解剖学実習を行いました。事前に実験動物の取り扱いに関してガイダンスを聞き、解剖学実習を実施しました。実際の解剖のやり方に触れ、またガイダンスや実習指導を受ける中で研究への興味関心を高め、命の大切さを実感してもらうことを目的として実施しました。

- 1 日時 令和4年12月23日(金) 13:00～16:00
- 2 場所 藤島高校 生物実験室
- 3 講師 福井大学医学部形態機能医科学講座解剖学 飯野哲 教授
- 4 対象 本校1・2年生 32名
- 5 内容 ラットを用い、神経系・骨格系・筋肉系・消化器系等の構造や機能に関する講義・観察含む解剖学実習を実施する。



6 参加生徒の感想

・今回初めてラットの解剖をして、本当に教科書通りにきれいに臓器が並んでいて驚きました。心臓や肝臓、胃、子宮など色々な臓器を肉眼で見て、それぞれ違う色で、特に肝臓は大きかったし、5つもあったし、疑問に思ったので調べてみようと思います。私たちのグループはメスのラットを解剖したけれど、子宮の形が人間と全く異なっており、尿道のように細い管状になっていて不思議に思いました。肺も気管を通して膨らませた時、肺胞が見られて、去年の授業で習ったことを実際に見ることができました。

今回の解剖を通して、それぞれの臓器をじっくり見ていく中で疑問がたくさん出てきました。その疑問に思ったことをしっかりと調べて今回の解剖実習を今後にも役立てていこうと思います。

・「生きている」ということはとてもすごいことなのだなと思いました。解剖してみても刃物を駆使しないと切開も難しいぐらいしっかりしている皮膚や筋肉など、つくりの丈夫さを感じました。また、教科書でしか見たことのなかった臓器を実際に見て生命の面白さ、そしてどうしてこのような形なのだろう、とか小さな受精卵からこのような多くの生きるために必要な部分ができているということの不思議さなど、生命の神秘、のようなものを感じることができたような気がします。今回、脳の解剖がうまくできず、あまり観察することができなかったのもまた機会があったらみたいです。特に印象に残っているのは、水晶体です。透明でキラキラしていてこんなに綺麗なものが体内にあるのを知り、びっくりしました。今回学ぶことができたのは解剖させてくれたラットのおかげです。わたしたちがより良い生活を送ることができるのも、実験になってくれる動物たちのおかげだと強く感じました。だから、先生が解剖の前におっしゃっていた「苦しませないこと」はとても大切だなと思いました。そして、ただ可愛そうと思うのではなく感謝の気持ちを持っていきたいと思っています。